

The 21st PECERA Annual Conference 発表報告

梶山女学園大学大学院 服部 沙織

この度日本保育学会の若手派遣支援の助成を得て、2021年7月にニュージーランドのウェリントンでオンライン開催された環太平洋乳幼児教育学会(PECERA)の大会でポスター発表を行いました。"How do Japanese Mothers Recognize their Role at the End of their Children's Early Childhood?"というタイトルで、幼稚園卒園を控えた園児の母親が認識している母親としての役割に関する研究です。

幼児期の終わり頃ともいえる卒園間際の園児の母親は、自身の母親としての役割をどのように捉えているのかということを知るために、愛知県内の幼稚園に協力してもらって卒園式前に質問紙調査を実施しました。分析の結果「子どもを心理的に支える」という趣旨の回答が最も多く、次いで「子どもを教育する」、「子どもの日常生活の世話をする」という趣旨の回答がありました。

親としての役割の認識は社会的・文化的な影響を受けていることも考えられるので、他の国の状況が聞けることを期待して大会に参加しました。COVID-19の影響でオンライン開催になり思うように他の参加者と意見を交わすことはできませんでしたが、大会のポータルサイト上で私の研究の地域性に関する質問があり、地域性にも着目して研究をする必要があるという課題を得ることができました。

国際学会大会の参加は今回が初めてでした。参加にあたり、日本保育学会交際交流委員会主催の国際学会派遣ワークショップの2回目と3回目に参加しました。登壇した先生方のアドバイスは参考になるものばかりで、日本語を単純に英語に置き換えないように留意する必要があることなどを学ぶことができました。また、ワークショップの質疑応答で同じ大会に参加する先生方の存在を知り、ワークショップ後に繋がることできて大変心強かったです。

正直言うと、「国際学会ってなんかカッコいい」というミーハーな気持ちからのスタートでした。実際に参加してみて「国際学会はやっぱりカッコよかった」。今後も国際学会大会での発表に挑戦できるよう、研究と英語の勉強に励みます。ご支援を受け賜りましたこと、魅力的なワークショップを開催して背中を押してくださったこと、心より感謝申し上げます。